

有機金属研究会

1. はじめに

有機金属研究会は触媒学会における最初の研究委員会であるモレキュラーカタリシス委員会を母体として創立され、有機金属化合物の新しい用途と機能を開発・展望することを目的として、討論会における「有機金属・分子触媒 (Organometallic and Molecular Catalysis) セッション」ならびに「オルガノメタリックセミナー」を中心に活動している。本研究会が主題とする主なテーマは (1) 分子触媒の設計・合成と均一系触媒反応の開発、(2) 有機金属錯体による新しい反応の開拓、(3) 固体触媒反応の活性点の分子論的解明、(4) 有機金属化合物の機能材料および医薬への応用、(5) 金属クラスターの合成、構造および新しい化学反応性などである。本研究会ではこれらの活動を通して触媒における均一系触媒および有機金属化合物の反応ならびに分子触媒に関する研究活動の促進ならびに討論の場を提供し、触媒化学の発展に寄与することを目的としている。

2. 研究会の活動

2.1 第 136 回触媒討論会セッション参加 (東北大学)

日時：9月19日 (金)

依頼講演： 谷藤一樹 (京都大学)
神川憲 (大阪公立大学)

一般講演 13 件 (対面開催)、ポスター講演 2 件

2.2 第 52 回オルガノメタリックセミナー (北海道大学)

第 52 回オルガノメタリックセミナー「触媒化学の新時代：理論と実験のマリアージュが導く有機金属反応の深化」

日時：10月31日 (金)

講師：田中耕作三世 (北海道大学), 長谷川淳也 (北海道大学), 内山真伸 (東京大学)

参加者：66 名 (対面開催)

3. 世話人代表

藤原哲晶 〒615-8510 京都府京都市西京区京都大学桂
京都大学 大学院工学研究院 物質エネルギー化学専攻
E-mail: fujihara.tetsuaki.2w@kyoto-u.ac.jp

4. 研究会の事業計画

4.1 第138回触媒討論会セッション参加（熊本大学）

有機金属・分子触媒セッションを開催し、関連領域の討論の場を提供する。関連の深いファインケミカルズ合成触媒研究会と調整し、セッション開催日程を早期に確定して周知する予定である。

4.2 第53回オルガノメタリックセミナーの開催

当研究会では「オルガノメタリックセミナー」を有機金属ならびに分子触媒の最新の研究成果の情報提供の場とするとともに、学生や社会人にも有機金属化学や触媒化学の無限の広がりとおもしろさを広く普及する場と位置付けている。なお、2026年度の第53回オルガノメタリックセミナーは、中村達先生のお世話にて東北大学で開催の予定である。

5. 最近のトピックス

第136回触媒討論会は当研究会と関連する有機金属化学討論会と日程が完全に重複し、申込件数の減少が危惧されたが、多くの会員および世話人のご協力によりほぼ1日間のセッションを実施することができた。依頼講演として、谷藤一樹先生（京都大学）により「立方体型金属-硫黄クラスターを用いた二酸化炭素からメタンへの触媒的還元」と題した講演をしていただき、クラスター錯体触媒を活用する二酸化炭素のメタンへの還元反応について丁寧にお話頂いた。また、神川憲先生（大阪公立大学）は「非中心不斉化合物の触媒的不斉合成、および応用」なる題目で、独自に開発された面性不斉配位子を用いる高エナンチオ選択的な反応について基本的な部分から最新のご研究までをお話下さった。

第52回オルガノメタリックセミナーは、美多剛先生（北海道大学）のお世話で、京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスにおいて行われた。田中耕作三世先生（北海道大学）からは「計算科学が描く光励起パラジウム反応の戦略マップ」と題して光励起パラジウム錯体触媒を活用する分子変換反応について、長谷川淳也先生（北海道大学）からは「計算化学による反応機構研究：リアリティを求めて」と題して実際の実験系に基づく反応機構解析を、内山真伸先生（東京大学）からは「理論と実験で拓く化学薬学研究」と題して計算化学で主導する有機合成・創薬研究と機能探索について、素晴らしい話題提供を頂いた。多くの学生が参加し、学生から多くの質問が出る活発なセミナーとなった。また、セミナー後のミキサーでは学生や教員との交流が行われた。